

アセフェート粒剤 ジェイエース粒剤	取扱メーカー： 全農 原体メーカー： 興農
成分： アセフェート〔有機リン系 PRTR・1種〕……………5.0%	性状： 類白色細粒 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】……………

- 有機リン系殺虫剤で、昆虫の神経系のアセチルコリンエステラーゼの活性を阻害し、アセチルコリンを分解できなくするため異常興奮を起こし、やがて死亡する。
- 殺虫スペクトラムが広く、広範囲の食葉性・吸汁性害虫に速効的に高い効果を示す。
- 散布後、速やかに根から有効成分が植物体に吸収、浸透し、長期間殺虫効果を発揮する。
- 定植前の植穴処理、作条散布、株元散布及び生育期の株元散布により発生初期の害虫を的確に防除できる。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 害虫の発生量・種類などによって散布間隔や散布回数を調節する。
- アブラムシ類やコナガなどに有機リン剤抵抗性の発達している地域では、作用性の異なる薬剤と組み合わせて使用する。
- 芝では散布後10a当り500～1,000ℓの散水が有効である。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 定植時に植穴処理する場合、土壌混和が不十分だと薬害を生じる場合があるので、土壌とよく混和する。
- 降雨直後で土壌水分が極端に多い場合は薬害を生じる場合があるので、植穴処理はさける。
- 土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので使用はさける。
- 共通注意事項8．適用作物群に関する注意事項を参照。

【安全対策上の注意】……………

- ミツバチやアブラバチなどの有用昆虫を放飼している場合は使用をさける。
- 蚕に影響があるので、桑葉にかからないように注意する。
- つまみ菜、間引き菜には使用しない。
- 眼に対して刺激性を有するので、眼に入らないよう注意する。眼に入った場合は直ちに洗眼し、眼科医の手当を受ける。
- 共通注意事項6．街路・公園・堤とう等で使用する場合は注意事項を参照。



【適用と使用法】……………

作物名	適用害虫名	10a 当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アセフェートを含む農業 の総使用回数
キャベツ	アオムシ コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	3～6kg (1～2g/株)	定植時	1回	植穴処理	2回以内 (定植時までの 処理は1回以 内、定植後の散 布は1回以内)
はくさい ブロッコリー	ヨトウムシ	6kg (2g/株)			株元散布	1回

作物名	適用害虫名	10a 当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アセフェートを含む農業 の総使用回数	
だい こん	アオムシ コナガ アブラムシ類	3～4kg	は種前	1 回	作条散布	1 回	
か ぶ	アブラムシ類	4kg	収穫 21 日 前まで		株元散布		
な ば な		6kg (2g/ 株)	定植時		土壌混和 処理		
き ゆ う り	アブラムシ類 オンシツコナジラミ アザミウマ類	3～6kg (1～2g/ 株)			作条散布又 は植穴処理		
ト マ ト	アブラムシ類 オンシツコナジラミ						
な す	アブラムシ類 オンシツコナジラミ アザミウマ類						
ご ぼ う	アブラムシ類	3～6kg	収穫 75 日 前まで		株元散布	2回以内 (株元散布は 1 回以内, 散布は 1回以内)	
み ず な		6kg	定植時		作条散布後 土壌混和	1 回	
ばれいしょ		3～6kg	植付時		作条散布	3回以内 (植付時の処理 は 1 回以内, 植 付後は 2 回以内)	
こ ま つ な						は種前	作条散布後 土壌混和
チンゲンサイ					定植時		
花き類・観葉植物 (きく、トルコギキョウ を除く)			1～2g/ 株 (但し, 9kg/10a まで)	発生初期	5 回以内	株元散布	5 回以内
			アザミウマ類				
き く	アブラムシ類 アザミウマ類	6～9kg					
		1～2g/ 株 (但し, 9kg/10a まで)					
	マメハモグリバエ	6～9kg					
トルコギキョウ	アブラムシ類 アザミウマ類	1～2g/ 株 (但し, 9kg/10a まで)					
つつ じ 類	ツツジグンバイ	2g/ 株					
た ば こ	アブラムシ類 ヨトウムシ	3～6kg	移植前	1 回	作条散布後 土壌混和	2 回以内	
芝	スジギリヨトウ シバツトガ	10kg	発生初期	5 回以内	全面散布	5 回以内	
	タマナヤガ	5～10kg					